



BIRTHDAY

成育疾患克服等総合研究事業



女性の健康の包括的支援
実用化研究事業



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

ゲノム・データ基盤事業部 医療技術研究開発課
創薬事業部 医薬品研究開発課
疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課



女性の健康の包括的支援実用化研究事業

Project for Whole Implementation to Support and Ensure the female life

女性がより良い生涯を選択するための健康を提供できるような社会づくりを視野に入れ、女性の健康や疾患についての問題を、心身における性差も加味し、かつライフステージの軸で多面的にとらえた研究開発とその実用化を推進します。

思春期

性成熟期

更年期

老年期

1. 女性特有の
疾病に関する
研究

1-1. 女性ホルモンが健康に及ぼす影響

(ライフコース追跡研究、更年期運動器疾患、就労女性の心身の健康問題等)

1-2. 女性器等に関する疾病

(子宮内膜症、子宮腺筋症、卵巣疾患等)

1-3. プレコンセプション期女性に特有の疾患 予防に関する包括的ケア方法の確立 若年女性に特有の疾患予防

(月経不順、過度のやせ・肥満、朝食欠食や概日時計の乱れによる健康への影響、等)

2. 男女共通課題の
うち特に女性の
健康に資する研究

2-1. 性差に関わる研究

(疾患性差、女性の心身の状況を考慮した診療ツールの開発、等)

事業概要

近年、女性の就業率の上昇、初産年齢の上昇、生涯出生数の減少、平均寿命の伸長等に伴い、女性の健康に関わる問題は大きく変化してきています。また、女性の心身の状態は思春期、妊娠・出産期、更年期、老年期といった、ライフステージごとに大きく変化するという特性があります。こうしたことを踏まえ、女性が生涯にわたり健康に生活できるよう、必要な情報提供を行い、ライフステージごとの課題に応じて包括的に支援していく必要があります。

本事業では、女性の健康に関する課題解決を目標とし、人生の各段階に応じてその心身の状況が大きく変化する女性の生涯を通じた健康や疾患について、心身における性差も加味し、かつライフステージの軸で多面的にとらえ、エビデンスに基づく「予防／診断／治療／予後・QOL」についての研究開発とその実用化を推進します。

PS・PO

●プログラムスーパーバイザー(PS)

武谷 雄二

医療法人社団レニア会 理事長

●プログラムオフィサー(PO)

緒方 勤

浜松医科大学小児科 教授

小松 浩子

日本赤十字九州国際看護大学 学長

澤田 典絵

国立がん研究センター社会と健康研究センターコホート研究部 室長

高橋 孝雄

慶應義塾大学医学部小児科 教授

高松 潔

東京歯科大学市川総合病院 産婦人科 教授



女性の健康の包括的支援実用化研究事業

Project for Whole Implementation to Support and Ensure the female life

1. 女性特有の疾病に関する研究

就労女性のライフコースにおける女性特有の健康問題についての疫学研究

平成30年度採択

林 邦彦

群馬大学大学院保健学研究科保健学専攻 教授

本邦女性の健康問題では、一生を概観するライフコース疫学分析がなされていません。そこで、大規模女性コホート研究から、①女性ホルモン剤利用の影響、②若年時の特性と後年の発症疾患との関連などを評価し、生涯を通じた健康管理につながる知見を示します。

多面的アプローチによる子宮内膜症、子宮腺筋症の病態解明、および予防・治療法の開発

平成30年度採択

大須賀 穰

東京大学大学院医学系研究科産婦人科学専攻 教授

子宮内膜症・子宮腺筋症は原因も不明で、現行の治療法・診断法も必ずしも完璧ではありません。本研究では新しい研究基盤ならびに副作用の少ない治療法・体に負担が少なく正確な癌化の診断方法を開発します。

概日時計の乱れが誘発する若年女性の生殖機能障害の実態とその機序の解析—朝食欠食とダイエットに着目して—

平成30年度採択

藤原 浩

金沢大学医薬保健研究域医学系産科婦人科学 教授

若い女性の朝食欠食や美容目的のダイエットは生殖機能を増悪させて将来産婦人科疾患を発症させる可能性があります。本研究ではその実態と機序を解析して若年期からの適切な食教育プログラムの提言を目指します。

性差をみとめる運動器疾患の病態の解明とそれに基づく診断・治療・予防戦略の開発

平成30年度採択

田中 栄

東京大学医学部附属病院整形外科学講座 教授

要介護の原因となる運動器疾患は女性に多い疾患ですが、まだ予防法が確立していません。本研究では実験研究と臨床研究の両面から骨粗鬆症、変形性膝関節症、サルコペニアの診断、治療、予防法の解明に取り組みます。

子宮腺筋症のゲノムおよびトランスクリプトーム解析に基づく発症・進展機序の解明と分子を標的とした診断・治療への応用

令和元年度採択

廣田 泰

東京大学大学院医学系研究科産婦人科学講座 准教授

子宮腺筋症は月経随伴症状のため生殖年齢女性のQOLを著しく損なう子宮の病気で、現在の治療は手術は子宮全摘で薬物療法の効果も十分ではありません。本研究ではゲノム・トランスクリプトーム解析を用いて病態解明と新規診断・治療法への応用を目指します。

更年期障害の早期かつ客観的な診断が可能となる新規パッチ式計測シートの研究開発

令和元年度採択

澤田 健二郎

大阪大学大学院医学系研究科 講師

更年期障害の客観的な診断法の確立を目指し、脳波、脈拍、発汗を同時測定できるパッチ型のシートを開発します。更年期障害に特徴的なアルゴリズムを作成し、測定装置としての実用化への道筋を確立することが目標です。

妊孕能低下予防・妊合併症リスクの低減を目指したプレコンセプション女性に対する包括的支援プログラムの開発

令和元年度採択

甲賀 かをり

東京大学医学部附属病院女性診療科 准教授

最近の女性は、妊娠を望む年齢が遅くなっていますが、妊娠希望年齢が遅くなるほど子宮内膜症・不育症等の罹患率が上昇し、不妊・妊娠合併症リスクが増します。本研究では、これらの問題を解決するために、①それらの疾患の予防法の確立と②それらの情報の国民への発信を目指します。

骨盤臓器脱および下部尿路疾患の網羅的情報に基づいた選別化と個別化治療戦略

令和元年度採択

宮里 実

琉球大学大学院医学研究科システム生理学講座 教授

骨盤臓器脱の疾患特性は十分に解明されていません。本研究では、骨盤臓器脱のゲノム情報を含んだレジストリを作成し、time-to-event、健常者を対照群として発症リスクを同定、早期かつ独自の予防プログラムの導入を実現します。

2. 男女共通課題のうち特に女性の健康に資する研究

個体レベルのエネルギー代謝とその異常に基づく疾患における性差の解明

平成30年度採択

田中 廣壽

東京大学医科学研究所附属病院 教授

個体のエネルギー代謝は、骨格筋を含む多臓器連関のもとで調節されます。その代謝機構の性差を解明し、加齢に伴う筋萎縮や肥満、種々の代謝異常に対する、性を考慮した合理的な個別化医療の創成を目指します。

女性診療を支援する「AI診断ナビゲーションシステム：WaiSE」の開発

令和元年度採択

片井 みゆき

政策研究大学院大学保健管理センター 教授

女性は月経・更年期に不定愁訴を示し、病気が見つかりにくいのです。見逃されがちな疾患を診断する「AI診断ナビゲーションシステム：WaiSE」を開発し、女性も医師もWaise（智喜）を手に入れることを目指します。

性差を加味した冠動脈疾患AI診断システムに関する研究開発

令和2年度採択

中尾 葉子

国立循環器病センター OIC循環器病統合情報センター レジストリ推進室長

女性は冠動脈疾患が診断されにくいことは報告されていますが、性差に基づく冠動脈疾患の精緻な予測モデルは十分検討されていません。本研究では、人工知能技術を応用した、医師向けの冠動脈疾患診断支援アプリケーションの開発を目指します。



国立研究開発法人 **日本医療研究開発機構** ゲノム・データ基盤事業部 医療技術研究開発課

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-7-1 読売新聞ビル TEL:03-6870-2221

(成育疾患克服等総合研究事業)

E-mail : birthday-ask@amed.go.jp URL : <https://www.amed.go.jp/program/list/14/03/004.html>

(女性の健康の包括的支援実用化研究事業)

E-mail : wise-ask@amed.go.jp URL : <https://www.amed.go.jp/program/list/14/03/006.html>